

## 生きる声からわれわれが得るもの 精神障害者も共に創造する共生社会の実現

### 特集にあたって

精神障害者“へ” 何をするかから、精神障害者“と” 一緒に何を目指すかへ、そして、精神障害者“も” 共にどんな社会と暮らし（安寧）を創造するかへ。

今も障害や社会参加を機能障害に基づきながら語るわれわれと、社会生活を送るうえでの障壁に基づきながら“障害”を語る当事者との間には、その認識や社会との向き合い方に隔たりがあるといわざるを得ない。障害の有無を問わず誰しもが同じ社会で同じ条件で生きられることと、障害の特性によって生活上の必要な条件や配慮の違いを知ること、共生社会という原風景を具現化するものにもなるといえよう。

あたり前の日々を、ありふれた場所で、袖振り合う人たちと共に生きていく。そんな「変わらない日常」にこそ、その人の固有のエピソードが織り重ねられていく。私たち OT も、それに寄り添い、共に同じ時間を重ねるなかで、社会や人は作業的存在であるという「変わらない信念」を抱きながら、かつ、包摂的かつ多様性のある社会になるための要請に応えるべく、日々の実践を「変えようとする意志と実行力」をもたなければならない。

本特集では、精神障害を抱える人たち自身に、ほとんどの執筆を担当いただいた。今後、国が「地域共生社会の実現」を推進する今だからこそ、本特集を通じて、精神障害者自身が語る社会への想いと暮らし方をそのままに感じとり、そこからわれわれ OT 一人ひとりが、今後の役割と実践を見いだしてほしいという願いが背景にあることを、お察しいただきたい。

精神障害者自身が書き記す（語る）これらのストーリーから、われわれはこれまで得てきた知識と経験を最大限に活かして、想像力を発揮しなければならない。そして、その想像を言葉にし、実行力へと変換していくことで、これからの包摂的かつ多様性のある社会における OT の役割や信念を得ることになるだろう。（宮崎宏興）

#### 企画担当

宮崎宏興（特定非営利活動法人いねいぶる、作業療法士）

香山明美（東北文化学園大学、作業療法士）

長野敏宏（御荘診療所、医師）